

SEINAN CHANTEURS



沙羅の花
(夏椿)

2011

平成23年度福岡市民芸術祭参加



2011年12月3日(土) 14:00開演
アクロス福岡シンフォニーホール

主催/西南シャントゥール 共催/西南学院大学同窓会、西南学院グリークラブOB会
後援/(財)福岡市文化芸術振興財団・福岡市・福岡市教育委員会・福岡音楽団体連絡会・福岡県合唱連盟・西日本新聞社



「2010定期演奏会」より



西南シャントゥール
会長／的野 恒一

師走の何かとお忙しい中、私共西南シャントゥール「第34回定期演奏会」にご来場賜り、有難く厚く御礼申上げます。

今年は3月11日の東日本大震災、福島原発事故に始まり、各地で風水害が起きる等、正に戦後最大の国難ともいえる大災害の年となりました。被災地の皆様方には心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り致します。

今回は、女声合唱団の「コーラ・赤坂」に賛助出演をお願いしました。実力派の美しい声と楽しいパフォーマンスが、必ずや皆様を魅了する事と思います。

私共は、男声合唱のための「典礼聖歌」、「イタリア民謡」、男声合唱組曲「沙羅」の三ステージで構成致しました。「典礼聖歌」と「沙羅」は、初めて聴かれる方が多いかと思います。「典礼聖歌」は日本で生まれたキリスト教聖歌、「沙羅」は美しい日本の言葉と旋律を持った日本歌曲です。「イタリア民謡」は今年がイタリア統一150周年に因んで、久し振りの定演再演となりました。また、「典礼聖歌」のオルガン伴奏では、木島美紗子先生にお忙しい中、神戸よりお出で頂きました。有難うございました。

本日の演奏会が、これからのお復興に多くの年月を要するであろう手始めの年、少しでも皆様方に明るさをもたらすことが出来れば幸いに存じます。

最後になりましたが、本演奏会の開催にあたり、今年多くの方々のご支援とご協賛を頂きました。深く感謝申し上げます。

今年ほど自然の猛威を思い知らされたことはありません。多くの被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げますと共に、復興の一歩も早いことをお祈りいたします。

今や福博の師走の風物詩となった感のある西南シャントゥールの定期演奏会ですが、本年は34回となるので、調べてみると、創立30周年の昭和59年第7回定期演奏会以降、実に27年間連続して開催されてきたことになります。学生の合唱団と異なり、社会人の合唱団が長期にわたり絶えることなく定期演奏会を行なうことは並大抵のことではないと思います。

西南学院グリークラブで青春を合唱漬けの中で過ごしてきたとはいえ、単に歌が好きだけではありません。聴衆の皆様に感動して頂ける良い音楽を作りたいという思いと共に、歌い続けることがメンバーの生きがいとなり、これまで継続できたものと考えます。

ここ数年、全国的にOB合唱団の元気よさに比べ学生合唱団の衰退が目立ちますが、やっと少しづつ回復傾向にあります。我が西南学院グリークラブも平成18年から2年間の休部を余儀なくされましたが、以降毎年3人5人とメンバーが増え、昨年のリバイバルコンサートに続き本年も12人のメンバーが、復活定期演奏会を12月21日西南コミュニティセンターで開催いたします。

これからもシャントゥールとグリークラブの更なる発展に、皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。



西南学院グリークラブOB会
会長／河野 正海

本日は、西南シャントゥール創立57周年第34回定期演奏会おめでとうございます。今回の演奏会では、高田三郎の代表曲、聖書の言葉がそのまま歌われている「典礼聖歌」、日本近代音楽の流れの中で、きわめて重要な位置を占める作曲家 信時潔 の作品「沙羅」、そして、なつかしい「イタリア民謡」などを盛り込んだステージと意欲的な選曲が並んでいます。

私が思う男声合唱といえば「いざたて戦人」が浮かびます。この歌は、まだ男声合唱曲が少なかった頃、西南学院グリークラブ部長の藤井泰一郎氏が讃美歌を日本語に訳し、それを団員に歌わせたもので、福永陽一郎氏がこれをひろめ、今では日本中の男声合唱団で歌われているということを最近知りました。その西南学院を母校とする西南シャントゥールの歴史の重みに、新たな感動を感じます。

歌は自分たちの口ずさむ歌から出発し、その歌声が空間に放たれ、その場の人々と音楽を共有できる一番身近なものです。人間味ある歌「西南シャントゥール」のコンサートは、聴きごたえいっぱい、音楽という広く、深く、すばらしい海へ、皆さんをぐんぐん引っ張って行くものとおもいます。

すてきな一日でありますように。



[I 部]

I. 男声合唱のための『典礼聖歌』

～東日本大震災被災者及び被災地に捧ぐ～

作曲/高田三郎

指揮: 徳永和彦

オルガン: 木島美紗子

- 神を求めるよ (詞/典礼聖歌編集部)
- 谷川の水を求めて (詞/典礼聖歌編集部 編曲/須賀敬一)
- 天は神の栄光を語り (詞/典礼聖歌編集部 編曲/須賀敬一)
- いつくしみと愛 (詞/典礼聖歌編集部 編曲/須賀敬一)
- 平和の祈り (詞/高田三郎 編曲/須賀敬一)
- 来なさい 重荷を負うもの (詞/高田三郎)
- 行け 地のはてまで (詞/典礼聖歌編集部 編曲/須賀敬一)

II. 《賛助出演》 コーラ・赤坂

～心に寄り添うことばと音楽～

指揮: 池田正子

ピアノ: 野中陽子

女声合唱曲集「光と風をつれて」

(作詩/工藤直子 作曲/木下牧子)

- いっしょに
- はじまり

「中田喜直童謡曲集」

(作曲・編曲/中田喜直)

- もりのよあけ (作詩/与田準一)
- はなのおくにのきしゃばっぽ (作詩/小林純一)
- 豆っこ打ち (作詩/結城ふじを)

女声合唱組曲「悲しみの意味」

(作詩/星野富弘 作曲/なかにしあかね)

- 椿
- 愛されている

—— 休憩 ——



[II 部]

III. Le Canzoni Italianni

～Canzoni Napoletanaの贈り物～

編曲/内海敬三

指揮: 佐藤棟也

ピアノ: 植村和彦

- Vieni Sur Mar (海に来れ)
(Italian Traditional)
- Torna A Surriento (帰れ、ソレントへ)
(text by Giambattista de Curtis ; music by Ernesto de Curtis)
- Non Ti Scordar Di Me (忘れな草)
(Italian text by Domenico Furore ; music by Ernesto de Curtis)
- Santa Lucia Luntana (遙かなるサンタルチア)
(music by E. A. Mario)
- Funiculi-Funicula (フニクリ、フニクラ)
(text by Giuseppe Turco ; music by Luigi Denza)
- Core 'Ngrato (Catari, Catari) (つれない心)
(text by Riccardo Cordifero ; music by Salvatore Cardillo)

IV. 男声合唱組曲『沙羅』

作詩/清水重道

作曲/信時潔

編曲/木下保

指揮: 徳永和彦

ピアノ: 植村和彦

- 丹澤
- あづまやの
- 北秋の
- 沙羅
- 鴉
- 行々子
- 占ふと
- ゆめ

I 男声合唱のための「典礼聖歌」

高田三郎と典礼聖歌

典礼聖歌は本来、キリスト教カトリック教会で行われるミサ(典礼)のための聖歌である。従来は、ミサにおいてグレゴリオ聖歌が唯一無二のものとして、ラテン語で歌われていたが、第二バチカン公会議の決議により各国の母国語でも行うことが出来るようになり、高田三郎は日本カトリック司教團から委嘱を受け、それを神様からの使命と受け止め、神の思想を一言足りとも誤って取り次いではならないとの思いで、一音一音を祈りながら選び、自らの信仰の証しとしてその半生を挙げ220曲の聖歌を作曲した。高田三郎の典礼聖歌は、単に敬虔で美しいだけの祈りの音楽だけではなく、人間が持つ喜び、悩み、苦しみ、悲しみ、怒り、嘆き、感謝、希望、憧れ、確信など様々な心情を、神との対話の中にじませた心の歌、魂の叫びの歌、祈りの歌である。典礼聖歌のテキストは聖書の御言葉そのものあるいは聖書に基づいて作られ「聖書が日本人にとって親しいものになるように」として、神の国の平和が訪れるように」との高田三郎の願いがそこに込められている。今や典礼聖歌は宗派、宗教を超えた、日本語を生かした新しい日本を代表する宗教音楽として世界的に認知されつつある。高田三郎自身による男声合唱は12曲であるが、氏の依頼により東海メールクワイアの指揮者須賀啓一氏の編曲を加え30曲数に及ぶ聖歌は、東海メールクワイアによって、氏の遺志を受け止め全国に広められ、今や男声合唱界の新しいレパートリーとして取り上げられている。

今宵の典礼聖歌が東日本大震災の被災者に、「神がそこにおられる」と、信じ、明るい希望の光が灯されんことを願い、私共の祈りと合わせ演奏致します。

この度の典礼聖歌の演奏に当たり、東海メールクワイアの都築義高会長より典礼聖歌伴奏の第一人者であるオルガニスト 木島美紗子先生のご紹介を頂き、伴奏者としてお迎えすることが出来ましたこと、また、ご助言・資料のご提供を頂きましたことに感謝申し上げます。

●「神を求めよ」(イザヤ書55章6～7節)

古代イスラエルがローマ帝国に征服されユダヤ民族はバビロン捕囚時代を迎える。この捕囚からの解放とイスラエルの復興願うユダヤ人に、予言者イザヤは「神を求めよ」「神に立ち戻れ」と呼びかける。イスラエルからどんなに遠く離れていても「私たちの近くに神はおられる」と。

そして、其れは現代という混沌の時代を生きる私たちに、2500年の遙かな時空を超えて届く幽けき叫び声である。心を澄ませてそれを受け止めれば、やはり、私達の近くに神はおられ、罪を赦し導いて下さる。求める者の心中に、いつも神はいて下さる、と。

●「谷川の水を求めて」(詩篇42章・43章4～6節)

この歌の背景にはバビロン捕囚の歴史があり「神の近くに行けないことを」悲しみ、主を拝顔出来るのはいつの日かと嘆き、かつて祭りに集う人々と喜び歌い、感謝の声を上げ、神殿にひれ伏した日々を思う。遠く離れた辺境の地からエルサレムを慕っています。そればかりか「お前の神はどこにいるのか」と問われ、敵に虐げられ、嘆き、枕を濡らし、神の救いを待ち望んでいます。その魂の渴きを「谷川の水を求めてあえぎさまよう鹿」になぞらえ、「神よ、わたしはあなたを慕う」と切々と神に訴えます。

●「天は神の栄光を語り」(詩篇19章2～7節)

神のみわざがこの地上から全宇宙に及び、天、大空、星、夜、太陽、月、大自然の移ろい、時の流れまでもが神の栄光を語り、たたえ続けるという、誠に雄大かつ壮大な神への讃美歌です。自然界における神の業をたたえる詩篇は珍しく、ハイドンが「天地創造」の中で同じ詩篇19章を使って、4人の独唱と合唱による作品を書いています。紹介しておきます。

典礼聖歌編集部 詞

♪神を求めよ 神の栄光はあらわれた
神を呼び求めよ
わたしたちの近くに 神はおられる

神に立ち戻れ
神のあわれみは満ちあふれる
神に立ち帰れ
わたしたちの罪は神はゆるされる

典礼聖歌編集部 詞

♪(答) 谷川の水を求めて あえぎさまよう鹿のように
神よ私はあなたを慕う
1. わたしの心はあなたを求めて 神のいのちをあこがれる
2. わたしはが行つてみ前にいたり み頬をあおひびく日はいつか
3. わたしは日夜神を問われて 明け暮れ涙を食物とする
4. 思い起こせば心はたかなる 喜び祝う人々の群れ
5. 感謝と賛美の歌声の中を わたしはみ前に進み出た
6. わたしの心はなぜうち沈み 思い乱して嘆くのか
7. 救いの神に希望を抱き かつてのようにみ前にすすみ
8. 賛美の祭りをささげよう わたしの救いわたしの神に

典礼聖歌編集部 詞

♪(答) 天は神の栄光を語り
大空はみ手の業を告げる
1. 天は神の栄光を語り 大空はみ手の業を告げる
日は日に言葉を語り継ぎ 夜は夜に知恵を伝える
2. 言葉でもなく話でなく その声も聞こえないが
その響きは地をおおい その知らせは世界に伝ふ
神は天に太陽の幕屋を拠えられた
3. 太陽は花嫁のように往まいを出て
勇士のようにその道を喜び走る
天の果てから姿を現し その果てまで巡り行ぎ
夜の往まいへの道を辿る

●「いつくしみと愛」

神と共に在る喜びとしあわせは、お互い思いやり信じ合って生きる、何げない日々の営みの中にあります。「いつくしみと愛さえあらばならば」どんな所にだって」なのです。反対に、それがなければ「どんなに立派そうに見える所にも」神はおられないのです。このようにして私たちは、言葉の解釈と、それに導かれる歌い方によって、聖歌を一層深いものにしていくことが出来るのです。(中略) 歌い終わったとき、その場所が天国であるかのようにしようではありませんか。出来ないことはありません。歌というものはその為にこそあるのです』(高田三郎典「礼聖歌を作曲して」より)「私は新しいおきてをあなたたちに与える。互いに愛し合いなさい。私があなた方を愛したように、あなたたちも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ福音書13章34節)

●「平和の祈り」(聖フランシスコによる、平和の祈り)

12世紀のアツジ、この世に生をうけたもののすべてがその姿形のちがいを超えて、共に生命の喜びを謡い睦みあう郷。持てるもの一切を捨て、人の世のしがらみを逃がれて、その精神世界に身を投じたフランシスコは、太陽を見、月を睇と慕う一齣の生命体として、鳥、草木、風…そこに息づく自然のすべてと家族のように生きたのでした。この曲は1982年6月、教会音楽祭「世界平和のために」での終わりの全員合唱のための曲として委嘱をつけ作詞・作曲されたものです。崇高で宝石のように光輝く平和の14箇条が心からの祈りとして歌われるよう確固たる構成をめぐらせ、一音一音に厳しい吟味を加えながらの作曲でした。『神よ、あなたの平和のために私のすべてをもちいて下さい』と自らのすべてを神に委ねることから始まる平和の祈り。「慰められるよりは慰めることを、理解されるよりは理解することを、愛されるよりは愛することを」と、ものの見方、心の在り方を変えて行くことが真の平和に近づく道であることを、この聖歌は示唆しているのです。

●「來なさい重荷を負うもの」(マタイ福音書11章28～30節)

『新約のキリストは、ユダヤ人の立法主義とは違い、私達をこの世から解放し、御國の喜びを与えて下さる方です。』(柔利)「謙遜」とありますですが、キリストは「十字架の死に至るまで、自分を低くして従うもの」となられた方であり、「仕えられる為でなくて、仕える為に来た」と言われ、父である神に対しても、又、全ての人に対して最も全く謙遜とやさしさ、キリストの愛を教えて下さった方でした。「わたしのくびき」とは「愛のくびき」であり、しかも、決して私達だけに負わせるのではなく、常に、私たちと並んで共に負って下さるのであり、実際、すでに人類全体の重荷を背負って十字架について下さったのです。2番の終わりの呼びかけのよう、私たちは「キリストの弟子になる」ことによってこれを受け止めることができます。負っている重荷が重ければ重いほど、キリストの招きのお言葉が胸にしみることと思います』(高田三郎「典礼聖歌を作曲して」より)歌は祈りであり、祈りは愛である。高田三郎の祈りの深さ、キリストの大ささ心身にしみわたる珠玉の聖歌です。

●「行け 地の果てまで」(マタイ福音書28章19節)

マタイによる福音書の最後は、主の復活を知られた11人の弟子たちが、イエスの指示に従ってガリラヤの山に行き、そこでイエスに会つて「あなた方は行って、全ての民をわたしの弟子にしなさい」、「私は世の終わりまで、いつもあなた方と共にいる」と派遣される場面で終わります。イエスの復活は、弟子たちを失意と絶望のどん底から救い、こうして福音を告げ知らせるために弟子たちを用いられ、このような弱い小さな群れから、次第に大きな波となって世界へ広がってゆきました。

(参考文献) 「男声合唱のための典礼聖歌読本」(指揮者／徳永和彦)

典礼聖歌編集部 詞

♪慈悲しと愛があればどこにでも
神はそこに共にいる

キリストの愛に結ばれ その喜びを分かちあい
おしうなく伝えあおう 心から神をたたえて
わけへだてをとり除き ネたみと争いを退け
輪をひろげて進みゆこう 主を囲むひとつの輪を
光り輝くキリストを 素顔のままに仰ぎみる
恩きぬ喜び限りなく 世々とこしえにアーメン

高田三郎 詞

♪神よあなたの平和のために
私のすべてを用いて下さい
憎しみのあるところに愛を
争いのあるところに許しを
分かれているところはひとつに
疑いのあるところに信仰を
誤りのあるところに真理を
絶望のあるところに希望を
悲しみのあるところに喜びを
闇には光をもたらすために
神よ私に望ませください
慰められるよりも慰めることを
理解されるよりも理解することを
愛されるよりも愛することを
自分を与えて与えられ
進んで許して許され
人のために死んでこそ
永遠に生きるのだから アーメン

高田三郎 詞

♪來なさい重荷を負うもの
苦しむものはみなわたしのもとに
私はあなたを休ませる
私は柔軟で謙遜だから
受けなさい私のくびきを
なりなさい私の弟子に
私のくびきは負いややすく
私の荷は軽いから
あなたの心は安らかになる

典礼聖歌編集部 詞

♪行け 地のはてまで
救いのおとずれを告げるために

II 《賛助出演》コ一口・赤坂

～心に寄り添うことばと音楽～

女声合唱曲集「光と風をつれて」

●「いっしょに」

譜面はシンプルですが、それゆえに難しいともいえます。一音一音踏みしめるように歌うのが、いまだに日本合唱界の主のようですが、それでは私の曲の持ち味は生かせません。ぜひ音楽に流れを作ってみてください。流れができると、旋律にまとまりが出て、まとまりごとに音色が変わり、音楽がどんどん表情豊かに立体的になります。そのとき肝心のハーモニーが痩せて何にもなりませんから、まず最初に豊かな響きを作り、それをキープしつつ旋律に流れを作り、その流れの上に言葉を効果的に乗せてみてください。日本語のアカペラを歌うのがどんどん楽しくなるはずです。—曲の解説については木下牧子の興味深い考察の一部を紹介する—

●「はじまり」

工藤直子詩、木下牧子作曲の混声合唱曲集を、女声合唱とピアノのために作り直した「光と風をつれて」の終曲です。これから始まる未来へのメッセージとして、何かを伝えることができればと、願いつつ…

中田喜直童謡曲集

「めだかの学校」「夏の思い出」「ちいさい秋みつけた」「雪の降る街を」など、誰もが知る、国民的愛唱歌を作曲した中田喜直。日本の四季を通しての名曲の数々。日本のシユーベルトとも呼ばれた20世紀を代表する作曲家の一人である。又、運動家・提唱家としての側面があり、とりわけ嫌煙運動家としての顔が知られている。自分の手が小さく、ピアノを弾くのに苦労をしたという中田喜直は、ピアノを習う子どもたちのために、鍵盤の幅を細かくすることを提唱した。提唱だけでなく、実際に作らせ、自身の作曲に使用したが、「細幅鍵盤運動」は嫌煙運動ほどの反響を得ることはできなかった。

この童謡曲集は中田喜直自身が、女声合唱用に編曲したものである。夜明けから夜までの、なつかしい子どもの頃の情景が思い出される曲集。

女声合唱曲集「悲しみの意味」

星野富弘さんの言葉には、不思議な力がある。ざわついた心も、しんみりした心も、明るくはしゃいだ心も、富弘さんのまっすぐに透き通った言葉を受け止めると、しっかりと落ち着く。シンプルに、短く、選び抜かれたことば達は、押し付けがましい説論でも訓諭でもなく、富弘さんが、日々この上なく大切に生きる中で、紡ぎ出されてきたものとして、そこにある。

—曲の解説について、なかにしあかねの興味深い考察の一部を紹介する—

歌曲伴奏にピアニストとして定評があり、合唱界でマルチな活躍を続ける作曲家、なかにしあかねによる合唱曲集。詩人星野富弘の優しく、かつ力強さをもった詩の世界のひとつひとつに、透明感あふれる音楽でつづられている。



指揮／池田正子 *Ikeda Masako*

福水女子短期大学音楽科卒業
筑紫女子短期大学非常勤講師
福岡県合唱連盟福岡支部副支部長
福岡合唱指導者協会会員

●合唱指導
コ一口・赤坂 コンセールかしい
女声コーラスふらいばん *Sela*



ピアノ／野中陽子 *Nonaka Yoko*

福岡女学院高等学部音楽科卒業 桐朋学園音楽学部ピアノ科卒業 第4回新人音楽コンクール入賞者記念演奏会出演
福岡及び東京にてショイントリサイタル出演
中村順子、高柳朗子の両氏に師事 筑紫女子短期大学非常勤講師
●合唱伴奏
コ一口・赤坂 九州フレッシュメンソウア 混声合唱団トニカ
女声コーラスふらいばん コンセールかしい

コ一口・赤坂

コ一口・赤坂は、昭和42年赤坂公民館の公民館活動として発足した女声コーラスです。来年で45周年を迎えるとしています。さすがに44年間歌い続けている方はいないのですが、コ一口・赤坂の持つおしゃれな雰囲気、前向きで明るい団員気質等は、綿々と受け継がれているのではと、自負しています。コ一口・赤坂に池田正子先生をお迎えして、今年で12年目となります。素晴らしい指導者に恵まれ、これからも感動する心を忘れず歌い続けていきたいと願っています。

Soprano

柴田 桂子	城戸 綾子	後藤 郁子	梶原 律子	熊丸 京子	高木由起子
鈴木智恵子	成清 亮子	高原 泰子	瀬川 律子	高石 和子	細田 瞳子
松本 優子	原 恵美子	竹内 勝子	森永 宣枝	時任 恵子	
秋山千鶴子	宮崎佳寿子	鶴田 智子		生野 富子	
江島 陽子	吉田ひとみ	福田 汎子		岡 恵子	

Mezzo Soprano

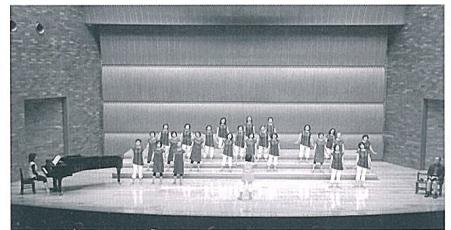
Alto

☆ 最近のステージから

- ・2006年10月 コ一口・赤坂コンサート “おとぎの国へようこそ” (福岡銀行本店大ホール)
 - ・2008年5月 「SHARE THE DREAM」日加修好80周年記念コンサート オカナガン・フェスティバル・シンガーズとのジョイントコンサート (カナダ・ケローナ市)
 - ・2008年11月 合唱団「夢」コンサート 伊藤光子先生をお迎えして (コ一口・赤坂・女声コーラスふらいばん・コンセールかしい) (福岡銀行本店大ホール)
 - ・2009年11月 第24回国民文化祭・しづおか2009 “合唱の祭典”
 - ・2010年 8月 第33回全日本おかあさんコーラス全国大会出場 (ホクト文化ホール:長野)
 - ・2010年12月 コ一口・赤坂コンサート“やさしさに包まれたなら” (福岡銀行本店大ホール)
- 外、全日本おかあさんコーラス大会 九州大会、合唱祭、赤坂公民館文化祭等へ出場



コ一口・赤坂コンサート ~やさしさに包まれたら~



第33回全日本おかあさんコーラス九州支部大会

♪ご一緒に歌いませんか！

練習日時：毎週木曜日 (10:00～12:00・午後随時)

練習会場：赤坂公民館(中央区) 092-751-4691

パビオ・ビルーム(博多区) 092-633-2180

■連絡先：成清 080-1711-6481

III Le Canzoni Italiani

～Canzoni Napoletana の贈り物～

イタリアがいつ頃から「民謡の国」と言われる様になつたかは定かではありませんが、イタリア民謡の歌唱法としてベルカント唱法があげられます。18世紀イタリアに起つたこの歌唱法は、自然の生理に逆らわず喉に無理なく低音から高音まで気持ちよくのびやかに歌える発声法で、高らかに旋律を歌い上げるに適した歌唱法といわれています。この為数多くの民謡が誕生してきました。又、イタリアはヨーロッパの中では南国的であり、他の国より明るい空と光を見る事ができる為、イタリア民謡は全体的に明るく、軽快で情熱溢れるものが多く、開放的で心の悶えを残すことなく歌い上げています。イタリア人のラテン系民族の特徴かと思われます。

今日はそのイタリア民謡の中でもナポリ民謡(Canzoni Napoletana)をお届け致します。ご存知の様にナポリはローマの南に位置し、イタリアの中でもより南国的な地理にあり、近くにはソレントやヴェスヴィオ火山等の観光地も多くあります。ナポリ民謡は狭義では、ナポリのピエディグロッタ教会で生まれた音楽祭での入賞曲のことを言い、広義ではナポリ地方で生まれた歌、という事が出来ます。

本日は多くのナポリ民謡の中から選曲した6曲を、心を込めてお届け致します。

● Vieni Sur Mar (海に来たれ)

代表的なナポリ民謡。舟で独り海に出て愛しい恋人を待つ恋心を歌つたもので、自然な抑揚と心地良いリズムを持つたいかにもナポリ民謡らしい明るい歌である。

♪ああ、目覚めおくれ、娘さんよ
月が澄んだ光を 海上に投げかけている
私と一緒にいて
君の舟乗りの褐色のしっかりした舟が
君を待っている

♪しかし君は眠り、忠実な恋人の事を考えていない
でも、眠らないのだ 恋に生きるは
私は、夜、浜辺の上を君へ飛ぶ
そして、昼は、心と共に
君のところへ飛んでゆく！

● Torna A Surriento (帰れ、ソレントへ)

エルネスト・デ・クルティスが、兄のジャンバティスタ・デ・クルティスの詩に作曲したもので、1902年のピエディグロッタ音楽祭で入賞し、一躍有名となり世界中に広く親しまれるようになつたナポリ民謡を代表する名曲である。

ナポリ湾に面した美しい町ソレントから船出してしまつた恋人を想う心が高らかに歌われている。

♪麗しの海よ、輝く光よ
嬉しきあの日の、思いは尽きず
花咲き、香れる、園にも さすらい
誓いを忘れしや、君

♪君、去りゆきしも、我は、ただひとり
なつかしこの地に、寂しく待つよ
帰り来よ、忘れずに来よや
帰れソレントへ！ この街に！

● Non Ti Scordar Di Me (忘れな草)

エルネスト・デ・クルティス作曲の名曲。1935年ジーリが主演し歌つた映画「忘れな草」の主題歌として知られています。ジーリ外、タリアヴィーニなど歴代の名テノールが愛唱している。

♪君の愛なくば、この世に 生きる甲斐なし 忘られぬ君の面影 優しきまなざし いつの日にか 再び忘れな草を その胸に	♪君に捧ぐ、忘れな草の 胸に秘めし この思い届けと 悲しきその別れの日にも 別れぬ この花を その思いを
---	--

● Santa Lucia Luntana (遙かなるサンタルチア)

サンタ・ルチアはナポリの守護神。希望に満ちた舟路ではあるが、ナポリを離れる身は悲しい、と歌う。美しい旋律のナポリターナである。

♪海も遙かに 滑ぎゆく今宵 舟人の歌 なつかし なつかしき歌に 月は登りて ナポリの ともし火 今は曉にかすむ	♪サンタルチア 去かれれば、心は悲し 希に満つる 舟にあれど ナポリの月に 別れゆく身は悲し サンタルチア 去かれれば 心は悲し
--	---

● Funiculi-Funicula (フニクリ、フニクラ)

ナポリ民謡の中でも最も知られた曲で全世界で広く歌われている。ナポリの名所のヴェスヴィオ火は、1944年に大爆発するまでは、頂上まで登山電車が運行されており、この「フニクリ、フニクラ」は、その登山電車を歌つた、いわばコマーシャルソングであり、ピエディグロッタ音楽祭で発表され人気を集めました。

♪今宵、登ろよ、あの山、あそこに 重い心も、軽々浮き立つ 山は火を吹き、燃え立ち、凄いよ 君もいるのだ 大丈夫 いざいざ 行こう、行こう、空高く フニクリ、フニクラ	♪高く登るよ 山の上、速いよ！ あれよ、フランス、スペインも見えるよ 登山電車は 登るよ 空まで 雲のごとくに 楽々 登るよ 行こう、行こう、空高く フニクリ、フニクラ
---	---

● Core 'Ngrato (Catari, Catari) (つれない心)

サルバトーレ・カルディロが1911年に発表した曲で、ナポリ出身で20世紀を代表する名テノール、エンリコ・カルーソーに献呈され、ニューヨークのカーネギーホールでも歌われた。わが国でも古くから親しまれているナポリ民謡である。去つてしまつた美しい娘カタリの薄情さに、痛む心が胸を打つ感動的な調べに乗せて切々と歌われる。

♪カタリ、カタリ 優しいあの言葉、思い 胸痛まぬ時はなし、カタリ 楽しさ あの日忘れじ カタリ	♪君は 我を はや忘れたまいしや 嘆けども 君は知らじ 悲しみも知りたもうまじ ああ、つれなくも いとおしの人よ 我を思ひたまわぬ
--	---

今年はイタリア統一150周年の年にあたります。この節目の年に「ナポリ民謡」が歌えます事を大変嬉しく思います。編曲は、西南シャントゥールの元指揮者の内海敬三氏によるもので、1993年の定演以来、18年振りの定演での再演となりました。
どうぞお楽しみ下さい。

(指揮者／佐藤棟也)

❀ プログラム ノート ❀

IV 男声合唱組曲 「沙羅」

信時 潔(のぶとき・きよし、1887-1965)。東京音楽学校(現・東京藝術大学)で当初はチェロを学び、後に作曲に転向、同学校教授を務める。ドイツ風の簡素で重厚な作風により、多くの名曲を遺す。中でも戦時歌謡として広く歌われた「海ゆかば」は夙に有名。皇紀二千六百年を記念した交声曲(カンタータ)「海道東征」も名曲の誉れ高い。他にも校歌・社歌の作曲を数多く手がけ、その数は現在判明しているものだけでも1000曲以上に及ぶ。有名校のものでは「廢帝義塾塾歌」「学習院院歌」「東京開成中学校校歌」などがある。

信時の代表作の一つである、組曲「沙羅」は1935(昭和10)年、東京音楽学校の同僚だった国文学者・清水重道の詩に作曲、8曲で構成されている。8曲はそれぞれ独立した内容で統一的な物語性はないが、いずれも日本古来から現代に至る純粋な日本の香り豊かな、そして気品ある作品である。それぞれの曲は特色ある歌であり、ながら日本画の個展へ行って、様々な手法による絵に接した感がある。キャンバスに、板に、大小の掛軸に南国風の墨絵あり、淡彩画ありと言ったところである。一般にはそれほど知られているとは言えない曲であるが、声楽を学ぶ人が必ず取り組む曲であり、音大入試やコンクールの課題曲として頻繁に取り上げられている。元は独唱曲であり、木下保により合唱組曲に編曲され合唱組曲「沙羅」として日本各地の合唱団のレパートリーとして歌われている。今宵は、私共は様々な手法による絵画を、詩の持つ心情と、色彩を合唱音楽として表現する中で、皆様に観賞、お聴き頂きたい。

●丹澤

丹澤に汗して登山した者の目に映る初冬の木立、沢の流れ、崩土、遠くに望む街並み等の自然への同化と孤独感「煙草吸うて見るひとり」が一体となっている。明るい静寂と孤独の詩。

● あづまやの

この詩は、催馬楽の「東屋」を下敷きにして書かれており、愛の問答歌風に詩句は畳みかけられリズミカルである。誘われ、疊ねても居ない恨みをユーモラスに描いている。

● 北秋の

山あいの小道にふと見つけた可憐な花と、「君」と呼ぶ女性のイメージがかかる、ほのか憧れを歌った詩である。愛する人への思いを北秋の「小さき花」に例えている。険しい山肌と小さき花を対比する事によって、より可憐な白い花を浮き上がらせている。

沙 羅

この曲全体の題名として選ばれているので、作曲者が共感した作品と思われる。静寂さと、日暮れの停止した時間の中に、象徴的に一ほの黄色なる沙羅の花を散らしているまさに幽玄の境地が運ばれている。

● 雉(からす)

弱は知能の発達した鳥で、上代においては、神意を伝える靈鳥とされているが、その一面、惡惠があつて人をだます、油斷のならない鳥ともみられてゐる。どこか人を喰つたような、それでいて物哀しげな姿を、可笑しみを持って描いてゐる。雪言冒頭に「歌うよう」どの洋画が示されてゐる。

● 行々子(よしきり)

久し振りに帰った故郷の河原の草原に、銳く行々子の声が響き一昔わが遊びし時と一変わらず、と懐かしさと共に、あの、子供のころはもう去つてしまつて遙か遠いという思いと、そして、あの時から今までの自分の人生のさきぎみな思いかうみがって来ま

七〇

この詩のみが自然を離れて、恋の行方への不安や心の揺れを—黒髪を梳(くしけず)る—行為の中に込めてい
る愛情の深い詩

● 沙 沙

連作の締めくくりのこの曲は、思い悩んだあげくの果てでは、未来は夢とただ大自然に抱かれ、あるがままに「悲しく」「絶えず」「さざ波」一生の諦悟を覚悟する歌はさし、那須あらわざの酒を口上むかしてゐる。

(参考) 「日本名曲百選」／畠中良輔監修・「沙羅」の音楽語法／田鎖大志郎　　楽譜「沙羅」歌唱について／木下 保

(指揮者／徳永和彦)

一、丹澤
枯れ笹に陽が流れる、背に汗
うら／＼と雲さへも、冬なのに
尾根長く檜洞(ひのきのあな)こえて響く澤おど
どの山も崩土の色だけは凍ててある
塔のむかふ町並光させて秦野(さな

見やる天城も明るい草附き
雪の來ぬ冬山のくぼに煙草吸うて見る
ひとり

◆丹澤川・奈良県北西部を中心、静岡・山梨両県にまたがる山地
◆檜洞・檜洞丸ひのきぼらまる ◆丹沢山地の丹沢主稜にある山
◆崩土・山の斜面が崩れたところ ◆塔・塔が岳(1400m)

二、あづまやの
あづまやのあまりに
立ちぬれて
殿の戸あけと
云ひし人もが

◆丹澤川・奈良県北西部を中心、静岡・山梨両県にまたがる山地
◆檜洞・檜洞丸ひのきぼらまる ◆丹沢山地の丹沢主稲にある山
◆崩土・山の斜面が崩れたところ ◆塔・塔が岳(1400m)

三、北秋の
北秋の花
白く小さき
呼ばましものを

みつ／＼し
白く小さき
呼ばましものを

四、沙羅
林、音なく
日の暮は
ゆめのごとし

◆峠・かひり山と山との間
◆峠・かひり山などがないといつている
◆よそへてあるものを他にたどえる
◆みつみつし・ひそやかな、の意か

五、鴉
小田の薄らぎ
首ぶり
肩をはり
踏づめたげに
大おそどり、からす

六、行々子
大おそどり
からす
ついばむ
ひよう／＼として
大おそどり
からす
わが戀のさためにも似て
ひたすらに
心わびしも

七、占ふと
占ふと云ふにあらねど
梳るわが黒髪の
常になうときわけがたく
なにがなし
心みだるゝ

八、ゆめ
あかつきに
見るゆめの
さめはてぬ
かなしさや
野のはてに
池ありて
人をらぬ
静けさや
白々と
たゞひろく
ひろごれる
さびしさや
夢ごゝろ
うつゝ心
たゞひろき
池ばかりなる

九、局(とざし)・斧(ほこ)・掛け金
あづまや東屋。ひなびたあるいは小さな建物
（注）沙羅は夏椿。よく「沙羅双樹」と呼ばれるが、
沙羅が亡くなつたときに、つたことで有名な
沙羅双樹は、熱帶樹で、日本の風土では育たない。
◆眞玉王の美称。◆ささら・小さいの意か。

この君
この君
云ひし人もが
五月雨に
わが訪ひくれど
門をさして
君はいまとさず
憎くや
さゝら
沙羅の花
ほの黄色なる

この君
この君
云ひし人もが
五月雨に
わが訪ひくれど
門をさして
君はいまとさず
憎くや
さゝら
沙羅の花
ほの黄色なる

この君
この君
云ひし人もが
五月雨に
わが訪ひくれど
門をさして
君はいまとさず
憎くや
さゝら
沙羅の花
ほの黄色なる



《客演》
オルガン／木島美紗子 *Kijima Misako*

大阪音楽大学ピアノ科卒業。在学中より関西二期会のピアニストを10年間務める。朝比奈隆指揮大フィルと共演。大阪、東京、名古屋などで高田三郎氏の伴奏者を務め、イスラエル・ローマ・ヴァチカンの演奏会に同行。1996年から6回、ウイーンのムジーク・フェラインでの演奏会に出演。2004年、ローマとパレストリーナ市へ演奏旅行。

2010年、アシジ・ヴァチカン、サン・ピエトロ大聖堂・ローマのサンタ・チャヂアリ亞音楽院のコンサートで演奏。豊中混声合唱団、東海メールクワイア、リヒトクライス(東京)など合唱団との共演が多い。カトリック教会オルガニスト。



指揮／徳永和彦 *Tokunaga Kazuhiko*

福岡高等学校在学中合唱部に所属、指揮を担当。
1961年西南学院大学商学部卒業。

在学中、西南学院グリークラブ創立40周年記念演奏会にて学生指揮を担当。
1997年、西南シャントゥール委嘱作品・多田武彦作曲：男声合唱組曲「三崎のうた・第二」を初演。1996年より西南シャントゥール指揮者。



指揮／佐藤棟也 *Satoh Tohya*

福岡高等学校在学中合唱部に所属。

1970年西南学院大学文学部フランス語専攻卒業。

在学中、西南学院グリークラブ創立50周年記念演奏会・東京・大阪記念演奏会にて学生指揮担当。創立50周年記念委嘱作品 清水脩作曲「木下夕爾の三つの歌」を初演。卒業後、石丸寛氏の東京フィルハーモニックソサイアティ他各合唱団で合唱活動。現在、福岡音楽団体連絡会副会長。2006年より西南シャントゥール指揮者。



ピアノ／植村和彦 *Uemura Kazuhiko*

福岡教育大学教育学部中等教育教員養成課程音楽専攻卒業。

福岡教育大学大学院教育研究科音楽教育専攻演奏学講座修了。

片山由紀、倉員由紀子、福田ひろみ、福田伸光の各氏に師事。

第43回・第45回・第47回北九州芸術祭にて伴奏賞受賞。

現在、福岡を中心として主に声楽や器楽とのアンサンブル、伴奏の分野で活動中。西日本短期大学保育学科助教。

西南シャントゥール 第35回定期演奏会
2012年12月8日(土)・アクロス福岡シンフォニーホール
＝多田武彦 委嘱『中也の雨衣』〈初演〉＝
● 指揮／多田武彦 《予定》

予告

出 演 者

1st Tenor	2nd Tenor	Baritone	Bass
宮地 基次	刀根 亨一	中辻 浩一	木道 昇
阿部 昌弘	的野 恒一	和田 正義	田中 義信
高木 正志	徳永 弘道	鈴木 勸	靄 喜廣
中尾 武史	大石 宏	森山 剛	松枝 保匡
日高 良公	野辺 和馬	石川 和義	平田大三郎
飛松 智明	波多江 忠	篠崎 詔二	蓮尾 勝右
本山 和文	徳永 和彦	森 博彦	佐藤 忠芳
宮城 研二	一柳 隆治	佐藤 棍也	波多野勝彦
坂部 雅夫	下田 昭	松尾 淳郎	毛利 正明
倉地 進	黒江 量二	山元 一憲	夏秋 毅昭
大司 真	徳永 武雄	里中 健	武藤 新
山口 聰	石松 茂	小西 真二	八尋 憲二
杉本 哲也	平塚 郁男	中嶋 恒生	調 真琴
	山本 武裕	高嶋 裕二	角 正信
	高川 弘幸		松尾 重治
	窪田 敏博		谷口 俊治
	眞鍋 敬介		中垣 登
	砥上 雅壽		宮地 純
			福田 誠司

＜西南学院グリークラブ現役：第3ステージ出演＞

三澤 一勲	山崎竜太郎	田島 亘	綾部 匠馬
鯉川弥寿良	青木健太朗	木下 晃輔	大友宗一郎
菊池 慎也	中島 秀治		恒松竜太朗

1年間の演奏活動

2010.12.4 西南シャントゥール第33回定期演奏会	アクロス福岡シンフォニーホール
12.23 福岡女学院「メサイア」コンサート出演	アクロス福岡シンフォニーホール
2011.1.8 新年会	西南コミュニティ・プラザ
1.23 総会	西南コミュニティ・センター
3.5 北九州西南会同窓会総会出演	小倉クラウンホテル
3.22 西南学院大学卒業式	西南学院大学体育館
6.5 福岡県合唱連盟福岡支部合唱祭	アクロス福岡シンフォニーホール
6.18 日本ルーテル教会博多群「福岡地区女性の集い」出演	日本ルーテル教会
8.16 ソフトバンク・ホークス公式試合セレモニー国歌斉唱	福岡ヤフードーム
8.27 第34回全日本おかあさんコラース全国大会「ザ・パーティ」出演	ホテル日航
9.18 橋フィルハーモニーーケストラ演奏会「第九」出演	アクロス福岡シンフォニーホール
11.13 西南学院大学文学会OB・OG連合会発足記念音楽会	西南コミュニティ・センター・ホール
11.19 船越ゼミ(千舟会)OB60周年記念総会出演	福新楼
11.27 岸川 均さん(西南学院グリークラブOB)を偲ぶ演奏会「風音」出演	西南学院大学チャペル
12.3 西南シャントゥール第34回定期演奏会	アクロス福岡シンフォニーホール

小史

西南シャントゥールは1954年(昭和29年)4月、西南学院グリークラブ54期のOBらが中心となり結成された。以来、西南学院卒業者のみのメンバーで構成されている。

シャントゥール〔Chanteurs〕という名称は、当時のアメリカ海軍の男声合唱団名の“*The Sea Chanters*”とフランスの男声合唱団名“*Companion de la Chanson*”を参考にし、結局フランス風に洒落て西南シャントゥール〔Seinan Chanteurs〕と命名された。

結成された当時は主に全日本合唱コンクールへの出場を目指し、3位入賞などの実績を残している。現在では、専ら年に一度の「定期演奏会」を活動の中心に置き、同時に又各地の合唱団とのジョイントコンサートやゲスト出演活動を続いている。現在全国的にみても、毎年定期を持つ貴重な一般男声合唱団として高く評価されている。

又、定期演奏会においては、委嘱作品の初演にも力を注ぎ注目されている。

《委嘱作品》

多田武彦作曲：男声合唱組曲「柳河風俗詩・第二」(1994)
男声合唱組曲「三崎のうた・第二」(1997)

吉田悠作編曲：日本の歌による男声合唱のためのメドレー「海へ山へ」(1996)・
男声合唱とハープのための「アイルランド民謡」(1997)

宇野正寛編曲：男声合唱曲「日本の歌メドレー」(2000)
大島ミチル作曲：男声合唱とピアノによる「生命の誕生」(2004)・

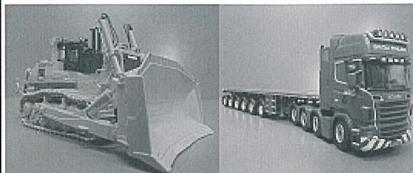
「悲しい歌はきらいですか」(NHK「御宿かわせみ」主題歌男声合唱版)
信長貴富編曲：「時代～ニューミュージックと呼ばれた歌たち～」(2007)

来年、第35回定期演奏会のために多田武彦氏へ男声合唱組曲「中也の雨衣」を委嘱。

(社)全日本合唱連盟・福岡県合唱連盟・福岡音楽団体連絡会 会員

ミニチュアカーで楽しむ はたらくクルマの世界

はたらくクルマの魅力は、なんといっても、その重量感と力強さにあります。ミニチュアカーはその雰囲気を気軽に楽しめ、実際に持つてみるとズシリと重く、ハデさはないけれど実車に迫るリアルさが見逃せません。そこには子供を引き付けるだけでなく、本物志向の大を満足させるだけのクオリティと奥深さがあります。コレクティブな商品を扱う通販専門店の下記へお尋ねください

クレーン・トラック・建設機械の
ミニチュアカー専門ショップ

Model Truck Factory

モデル トラック ファクトリー
<http://www.mt-factory.com>
メール info@mt-factory.com
〒818-0059 筑紫野市塔原東3-13-1
tel 092-918-5615 fax 092-918-5610

トラクターなど農業機械の
ミニチュアカー専門ショップFarming Machine Miniatures/Boom Boom Garage
フーモンガーマシンミニチュア
ブームブームガレージ

Boom Boom Garage
<http://www.bb-garage.com>
メール info@bb-garage.com
〒818-0137 太宰府市青葉台3-21-16
tel 092-555-5816 fax 092-555-5817

愛犬元気 ベストバランス

犬種で選べる専用フード

体型や体格によって、ケアしてあげたいカラダの部分は違います。
愛犬元気ベストバランスは、素材本来のおいしさと
栄養バランスで、特定犬種の健康維持をサポート。
豊富な種類の素材のうまみをぎっしり詰めこんだので、
毎日の食事がもっと楽しくなります。

●商品に関するお問い合わせは、フリーダイヤル 0120-810-539 ユニ・チャームペットケアお客様相談ダイヤルまで。
ユニ・チャーム株式会社 <http://www.uc-petcare.co.jp>

AIXIA
で使用している魚の身肉入り。

NEW!

お問い合わせ先：アイシア株式会社 お客様センター フリーダイヤル 0120-712-122 1kg 2.3kg

Grain & Pet Care Communication



MORIMITSU

株式会社 森光商店

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7
PHONE. 0942-85-1125(代) FAX. 0942-82-9780



株式会社 山本文房堂

- 本店/中央区大名2丁目4-32 〒810-0041 ☎092(751)4342
- アートスクール/中央区大名2丁目4-32 〒810-0041 ☎092(751)4342

*通信販売を承ります。お気軽におたずねください。

URL <http://www.yamabumi.com> E-mail yamabumi@anet.ne.jp

きどう動物病院

KIDOU SMALL ANIMAL HOSPITAL

獣医師 木道 寛・木道浩子



福岡市城南区田島5-4-18
TEL 092-862-1222



中垣不動産

不動産のことならおまかせ下さい。
誠心誠意でお手伝いさせて頂きます。

福岡県知事(3) 第14016号
〒818-0121 太宰府市青山3-27-2
Tel:092-918-6487 Fax:092-918-6488
<http://www.nakagaki-fudousan.com>
E-mail:nakagaki@bb.csf.ne.jp

ホテル&レストラン

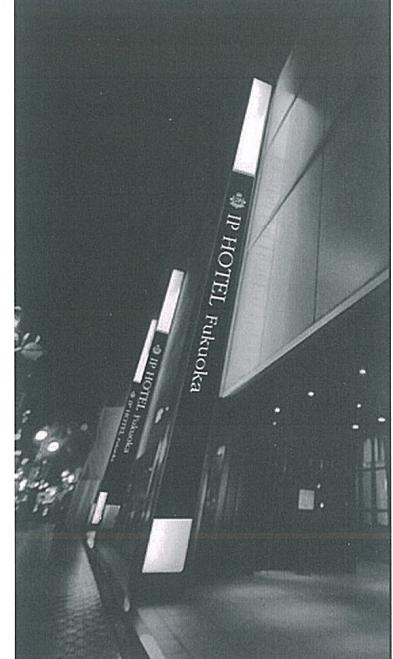


Familia
CAFE

福岡市営地下鉄中洲川端駅

②番出口より徒歩1分!

TEL092-262-2009



新しい発見がある♪♪ヤマハ福岡店

合唱楽譜(同タイトル)15冊以上のご注文で
『10%OFF』させて頂きます※対象外商品もございます



YAMAHA

HPアドレス
<http://www.yamahamusic.jp/corp/kyushu>

■営業時間
11:00~19:30
(定休日/火曜)

福岡市中央区天神1-11-17 福岡ビル1F TEL 092-721-7621

- ピアノ・エレクトーンフロア TEL092-752-0626
- 管弦打楽器フロア TEL092-721-7633
- 楽譜フロア TEL092-721-7634
- CD・DVDフロア TEL092-721-7632



Since 1954